

-児童館と家庭をつなぐオンライン演劇ワークショップ-

活動報告

一般社団法人フリンジシアターアソシエーション

取り組みの内容

今年度初旬より、新型コロナウイルス感染症の影響で、左京区の明德児童館においては、児童館外の子どもたちや、大学生ボランティア、地域住民との交流の機会が減少し、さまざまなレベルの分断や孤立が問題となっていた。

そこで、今回の事業では、三密を避けたオンライン実施の演劇ワークショップを開発し、明德児童館に来ている児童・自宅待機の児童・大学生・地域住民の交流を促す試みを行なった。以前、明德児童館で対面実施した、直接民主制を体験する演劇ワークショップである『キッズの宣言』を、オンライン実施できるようコンテンツを開発し、実際に児童館において実践した。

▼イベント実施の様子

日時：2020年12月5日（土）

内容：『KIDSの宣言！』オンライン版を実施

場所：配信スタジオ・児童館・各家庭をオンラインでつないだ

参加者：児童館の児童・児童館外の児童とその保護者・大学生・左京区在住の大人・有識者

参加人数：30名

イベントは、児童館に来館している児童・配信スタジオからワークショップを進行するファシリテーター・各家庭から参加する子どもたちや大学生・地域住民を、オンライン会議システムを介して繋ぎ、行なった。児童館から参加する児童には、1人1台タブレットを貸し出し、ソーシャルディスタンスを確保した状態で実施した。（写真1参照）

ワークショップでは、まず、お互い初めて会う人が多かったため、アイスブレイクを行った。オンラインという制約の中でも、多世代間でお互い工夫してコミュニケーションを取る様子がみられた。また、オンライン会議システムを用いて議論をするにあたり、コミュニケーションを助ける機能（リアクション機能やチャット機能など）について、ミニゲームを使った解説を行った。ワークショップ後半の議論や各チームの発表などでは、子どもたちが、リ

アクション機能やチャット機能を使用して円滑なコミュニケーションを行う様子が見られた。(写真 2 参照)

『KIDS の宣言!』ワークショップでは、話し合いのコツを紹介するアニメ教材を見たあと、大人から子どもまで多世代が混合した小さなグループに分かれ、話し合いを行なった。年齢や立場が異なる多世代間で、活発な議論が行われた。また、その後のグループごとの発表では、子どもたちが積極的に意見を述べる様子が見られた。



写真 1



写真 2

本事業の成果

密を避けた形で、児童館の児童と、児童館外から参加する児童、大学生、地域住民が交流し、意見を交わすことができた。異なるコミュニティ・異なる世代の人々との関わりの中で、互いに良い効果が見られた。「児童館にて、普段は大人しく、主張がなかなかできない児童も、自分の意見を述べる事ができた」など、現場からポジティブなフィードバックもあった。

ソーシャルディスタンスが求められる現在の社会において、インターネットを通じても確かに交流できる子どもたちを育てるという点において、貢献できたと考えられる。

来年度以降も事業を継続し、また、この事業のフィールドをさらに拡大できるよう、活動を進めていく。